

# 設立15年で先駆ける 人材育成 書籍購入費の補助も

橋梁DX時代に向け、先駆的に取り組んでいる杉山設計事務所(名古屋、杉山宜史社長)。

設業界は人材確保が課題だけに、注目したいところだ。同社は現在、従業員が14人(うち2人はパート)。女性がうち11人を占めている。女性活躍の先頭に立つ。

取材の時、杉山社長がオフィス内を案内してくれた。勤務中の人たちに呼びかける。「土木関係の学校を卒業した人、手を挙げて」「前職が橋梁設計だった人は?」。いずれも数人が手を挙げただけだった。

例えば、今はCADの専門家として腕を振るうA子さん。前職は大手上パーで採用などを担当していた。思うところがあつて会社社員時代の杉山社長と

社を辞め、趣味の自転車で日本一周の旅へ。「これまでと全く違う仕事をしたい」。ペダルを踏むうち、そんな気持ちが芽生えた。たまたま手にした雑誌でCADを知り、スクールに通って勉強。派遣登録して最初に働いたのが、橋梁設計の会社だった。

「その頃は、そもそも橋梁設計という仕事があることが驚き」。実務経験はなさに等しかったから、まさに千本ノック。参考図書や要綱、手引きなどを首つ引きで確認しながら、ひたすら図面を大量に描いていた。

そこで働いている間に会社社員時代の杉山社長と知り合い、独立すると聞いて創業に携わった。今では難易度の高い図面をこなしながら、後続となる若手技術者への指導も行っており、杉山社長の信頼が厚い。

また、例えばB子さん。前職ではCADオペレーターとして働いており、知人のA子さんの紹介で同事務所に転職した。CADとはいえ自動車部品メーカーだったから、橋梁は畑違い。図面を描きながら、疑問点は上司に教えてもらい、自分でノートにまとめていたという。

「社内ですぐ勉強会が開かれるので、常に学べる環境にあった」。その社内勉強会が、同社の特徴の一つだ。同社の技術顧問(橋梁メーカー、建設コンサルタン



女性の姿とパソコン画面が目立つ杉山設計事務所

## 新卒社員も頑張る

### 富永さんと安達さん

もちろん、新卒で頑張っている社員もいる。富永琴(みづの)さんと、安達優斗(やまと)さん。

2020年春に工業高校を卒業して入社した。折からコロナ禍。出社できたのは、愛知県の緊急

事態宣言が解除された5月末になってからだった。それから3年余。富永さんは今、2次元の橋梁設計図を手掛けて

いる。海に近いコンクリート橋なので、塩分の影響を減らすため、鉄筋と

ト、大学教員など)を招いて橋梁工学や構造力学の専門分野を学んでいる。社員同士で学び合う会や、技術士など資格試験の勉強会も活発だ。

中途採用の社員教育は、OJTが基本。1人の先輩がずっと教えるのではなく、仕事の内容によって、その分野得意とする人が教えるようにしている。会社の制度にセミナー参加費や資格試験受験料のほか、書籍購入費の補助もある。専門書は、一般に高価なので、社員に喜ばれている。

富永さんは、鋼橋の補修・補強の図面を描き、3Dプリンターの分野もこなす。「仕事の成果をお客様が見て、喜んでいただけるのが楽しい」。それにはやはり、勉強が必要だろう。「本を読んだりするが、勉強しているという感じはない。好きでやっていることなので」という。



会社のエントランスで、富永さん(左)と安達さん

